

会議名	令和2年度第2回 宝塚市環境審議会		
日時	令和3年(2021年)3月1日(月) 15時30分～17時50分	場所	宝塚市立中央公民館 ホール
出席者	委員	澤木会長、足立委員、矢野委員、光村委員、長榮委員、梅宮委員、遠藤委員、島委員、島田委員、栃本委員、牛川委員、山本委員、戸川委員、辻井委員、鎌田委員、竹谷委員、喜多委員、新谷委員	
	事務局	環境部長、環境室長、環境政策課長、同課係長、地域エネルギー課長、同課係長、同係員 環境エネルギー政策研究所 山下主任研究員(※) (※印はオンライン会議システムによる参加)	
内容(概要)			
開会あいさつ(環境政策課長)			
<p>第2次宝塚市温暖化対策実行計画の策定に向けて議論を深めるため対面での会議とした。感染防止対策のため換気を行い、委員の皆様同士の距離をとっている。入り口での消毒、マスクの着用など協力をお願いする。</p> <p><b>【資料確認】</b></p> <p>実際に集まっていたいて会議を開催するのは令和元年11月以来。新たに就任された委員を紹介する。<b>【宝塚商工会議所から新谷委員、宝塚市自治会連合会から光村委員、第2次宝塚市温暖化対策実行計画策定委員から大阪ガスの鎌田委員を紹介】</b></p>			
(会議の成立確認)			
<b>1. 議題</b>			
<b>(1) 宝塚の環境について</b>			
<p><b>【事務局より資料1「宝塚の環境」について説明】</b></p> <p>「宝塚の環境」は、環境基本条例に基づく年次報告書で、毎年審議会に提出している。本日は時間の関係で内容についての議論を行うことができないが別紙意見書の様式を作成した。令和7年度までとなっている第3次環境基本計画を進めていくためにも、意見があれば3/31を目安に事務局まで寄せていただきたい。</p> <p>主なポイントについて、目次を使って説明する。今年度、全体的に文章を見直してわかりやすくすることに努めた。特に見ていただきたいのは、P7からの環境基本計画環境指標の達成状況、この後議論にもなる第3-1の地球温暖化対策、第3-4「生物多様性たからづか戦略」の進捗状況、第4の公害対策である。公害対策の結果は、先ほどの進捗状況の中に含まれているので、詳細はそちらをご覧ください。また、バックデータはホームページに公開している。</p> <p>P7の環境基本計画の指標をご覧ください。全41項目の目標値と令和元年度の実績値</p>			

をまとめた表を新たに掲載した。達成状況の◎と○を合わせると 68.2%、反対に×がついているのは 26.8%である。時間がないので、×がついたものについて説明する。9 再資源化率は減少しているが、重量ベースでの算出なので、一概に良い悪いの判断ができない。10 環境保全活動団体数は、新規加入者減や高齢化により×がついた。15 生垣など緑化延長は、宅地の狭小化で生垣が作れず数字が伸びていない。18 環境基準の達成率（水質）は自然由来によるもので、健康被害の報告や例年と比べて値の急激な変動はない。24 悪臭など苦情件数は野焼きがほとんどで、行政指導での改善が難しい状況にある。27 は自治会を中心とした活動で、横ばいである。28 の違反広告物除却市民ボランティア団体数は、違反広告物自体が減っているので、ボランティア数が増えるのがいいのかどうか判断が難しい。30 の高齢者・障がい者住宅バリアフリー改修費用助成の促進だが、制度改正に伴い、1 件当たりの助成単価が上がり、結果として採択件数が減ってしまった。予算は全て使い切った。よって、件数で測るのがいいかどうかはわからない。33 アトム 110 番連絡所登録数は、高齢化により数字が減少した。36 環境セミナーは、フィールドワークの講座を増やしたが、参加者数が減少した。座学のニーズがあるのか、フィールドワークのハードルが高いのか、といった点について今後分析していく必要がある。37 環境マイスター制度は、引き続き検討していかなくてはいけないという認識を持っている。

P11 からは市の地球温暖化対策の現状、P26 からは生物多様性たからづか戦略のまとめをしている。以上の点について見て、ご意見をいただければと思う。

質疑応答

【会長】

先ほどの説明部分を中心に見ていただいて、意見提出をお願いしたい。意見の提出方法など不明点があれば質問してほしい。なければ本件については以上とする。

(2) 第 2 次宝塚市地球温暖化対策実行計画の策定について

【事務局より資料 2 に基づき説明】

スケジュールを見ながらこれまでの議論を振り返りたい。環境審議会は令和元年 11 月に開催した。それ以降は、地球温暖化対策実行計画策定委員会の中で議論を重ねてきた。策定委員会の委員でない環境審議会の委員にも、策定委員会の資料や議事録も共有させていただいてきたので、審議の概要はご承知いただけているかと思う。審議会には令和 2 年 5 月に意見照会をさせていただいた。第 2 次地球温暖化対策実行計画は第 2 次宝塚エネルギー 2050 ビジョンと合わせて策定を進めてきたが、それぞれ目標や取組の概要が決まったので、令和 2 年 12 月からは分かれて議論した。第 2 次宝塚エネルギー 2050 ビジョンについては、令和 3 年 2 月 19 日の会議で、4 月にパブリックコメントを行うことが決まった。

環境審議会は令和 3 年 2 月 4 日～15 日の間、書面会議を開催し、たくさんの意見をいただき、感謝している。内容は資料 3 のとおりである。検討の上、全てではないが、今日の計画案（資料 5）にも反映した。中間答申前の審議会の開催は今日で最後と考えている。今日の審議会でもいただいた意見は、事務局と会長で調整させていただき、3 月中の庁内会議などを

経て、パブリックコメントに進みたい。パブリックコメント後の6月に審議会を予定しており、そこではパブリックコメントを受けてのあらためて意見をいただきたいと思っている。

**【事務局より資料5に基づき説明】**

ポイントを絞って説明する。

P3の下 国内の動向の書きぶりが足りないと意見をいただいたが、これは資料5ではなく本日の追加資料で追記した内容をご確認いただきたい。

P37 資料3で「推計」に修正したと回答したが、修正されていなかった。これから修正する。

P49 囲みのところのコジェネの追記ができていなかった。これから追記する。

**【事務局より資料4に基づき説明】**

本文P36-37で、BaU (Business as Usual、現状趨勢) の考え方が難しいとのことで資料化した。BaUとは、特に対策をしなければ2030年はこうなるだろうという数値のことで、それを部門別に示した。

産業部門の2030年ポテンシャルは2008年から2017年の製造品出荷額の推移を見て算出した。2017年度の電力の割合を見て、電力の排出係数が下がっていくという予測も加味し、産業部門はCO2排出量が2017年の60千t-CO2から59千t-CO2になると推計している。

民生家庭部門は世帯数を考え、排出量に占める電力の割合と排出係数が減少することを加味して計算をすると、特に対策を取らなくても2017年の267千t-CO2から196千t-CO2になると推計している。市全体では605千t-CO2になると推計している。それでも対策は必要になるが、対策をしない場合でもこのくらいになるというBaUを示している。

資料4の裏面を見てほしい。「ポテンシャル」がわかりにくいとのことで資料を追加した。本文ではP39にあたる。ポテンシャルは「2030年までに削減可能な量」という言葉に統一した。最大ここまで減らすことができるのではないかとという値が2030年までに421千t-CO2となった。

国の「約束草案」というものがあり、そこでは2013年度比で2030年はこれだけ削減するというものを示していて、これを参考にしている。例えば産業部門を見ると、2013年度の市の排出量は85千t-CO2となっている。国の約束草案の産業部門の削減割合は6.5%なので、市の2030年の排出量は79.8千t-CO2という推計になる。ただ、2017年度は59.6千t-CO2まで減少している。国の約束草案ではエネルギーの転換部門の効率化については部門とは別に計算されている。それによるとエネルギー転換部門は効率化され、28%削減していくという計算がされている。2013年度の排出量に占める電力の割合が6割であること、エネルギー転換部門が28%削減されること及びその9割が発電であることを加味して、発電の効率改善分を  $59.6 \text{ 千t-CO2} \times 60\% \times 28\% \times 90\% = 9.01 \text{ 千t-CO2}$  と計算し、2017年の排出量59.6千t-CO2から9.01千t-CO2を引き、51千t-CO2という数字を算出した。

一番大きな割合を占めている民生家庭部門についても説明したい。考え方は産業部門と同

じで、2013 年度の市の排出量は 328.8 千 t-CO2 あった。国の約束草案では民生家庭部門は 39%削減としている。38%減は 199.6 千 t-CO2 となる。そして産業部門と同様、民生家庭部門の 2013 年度の排出量に占める電力の割合が 74%であること、約束草案に書かれているエネルギー転換部門の削減率や発電が占める割合を加味して、199.6 千 t-CO2 の中の発電の効率改善分を  $199.6 \text{ 千 t-CO2} \times 74\% \times 28\% \times 90\% = 60.9 \text{ 千 t-CO2}$  と計算し、これを 199.6 千 t-CO2 から引いて、家庭部門は 139 千 t-CO2 という数字が出た。これが 2030 年の削減ポテンシャルになる。全ての分野を合計すると、2030 年に市全体では 421 千 t-CO2 になる。

細かい計算方法を本文に書きこむことは難しいので、計画を策定した際には、資料編で計算方法を示したい。

#### 質疑応答

##### 【会長】

前回の審議会はコロナの影響で書面開催とした。資料 3 にあるように、たくさん意見をいただき、それを反映したものが資料 5 になっている。質問・意見があればお願いしたい。

##### 【委員】

今日の訂正資料、下から 4 行目に、新車販売で「電気自動車 100%」とあるが、正確には「電動車」ではないか。ハイブリッドも含めていると思うのだが。

##### 【事務局】

おっしゃるとおりである。修正する。

##### 【委員】

ポテンシャルの考え方は日本の約束草案を基にしているというが、約束草案は不評だったという意見もある。COP26 が延期になり、今年 COP26 に間に合うように各国が資料を作っている。日本もその作業をしていると思うので、2015 年の約束草案をベースに考えるのはおかしいのではと思う。どのような草案が出てくるのかわからないが、もっと意欲的なものにしないかと思う。目標値が低くないだろうか。

##### 【事務局】

2030 年に温室効果ガス排出量を 421 千 t-CO2 にするという事は、2013 年度比で考えると 47%減で、これは他の自治体の削減目標と比較しても意欲的な数字である。これから国が出す資料も注目しているが、現時点では計算の拠り所にするものが他になく、2013 年度の数字を使っている。県が今年度作っている最新の計画でも 2013 年度比最大 38%削減、国は 2013 年度比 26%減を現在目標としている。宝塚市の目標はそれを上回っている。10 年計画なので、今後出てくるものにも注視し、必要に応じて目標値も修正していきたい。

##### 【会長】

政府の具体的な数字が出てくるのが今年の 8-9 月と聞いている。現時点では 2013 年を基準にした 2015 年の約束草案を使って出す数字を使って計算しているということ。

##### 【事務局】

委員の皆様が気にされているのは、今後の国の動向ではないかと思う。去年の終わりから

加速しているので、今後も変わってくると思う。P3にカーボンニュートラルに向けてのグリーン成長戦略も書いた。パブリックコメント後の最終案の時には、国の新たな動きも入れたい。

本計画のCO2排出量の関係数値が2017年度と古いという問題もある。ただ、国等の統計データを使っているので、どうしても最新の値は出ない。今年度末にCO2排出量の2018年度の実績値が出るので、計画ができる時には数値を修正したい。先日、自治体・電力会社のオンライン会議に出席したが、電力のスマートメーターが普及によるリアルタイムの使用電力の把握、その活用について意見交換をした。将来、電気のCO2排出量がリアルタイムにわかる仕組み、エリアごとにも集計できる仕組みができるかもしれない。新しいシステムに対応できるように検討していきたい。

#### 【委員】

教師をしてきた立場から見て、不安を覚えることがある。温暖化防止は目に見えない現象である。例えば、P9に温暖化の原因物質が出ているが、IPCCはグラフ化して、ぱっと見てわかる資料が出ている。もう少しわかりやすい資料を入れることが大事だと思う。もうひとつは、P44、P48に「小学生への環境学習」と出てくるが、なぜ「小中」ではだめなのかと教員としては思う。小中でどのように学習支援をしていくかが書かれていなくてはいけないと思う。また、「小学校への」というと、一方的な押しつけの教育にも取られてしまう。一般市民ができることは「小学生の環境学習を支援する」ことだと思う。

P17に「公共施設において置かれている」ペレットストーブの導入例が出ているが、阪神北県民局にもかなり前から置かれている。民間企業の中でも率先している場合もある。もう少し調査されて実態を反映してもらえないかと思う。

P51に次世代自動車の充電インフラについて書いてあるが、できるだけ早く実行に移せること必要だと思う。丹波市は市役所の本庁舎、支所の駐車場にEVスポットがある。宝塚市でも計画策定後すぐに、計画実行の覚悟を表明するためにも、何かひとつでも具体的に事業を見せてほしいと思う。

P11に環境学習施設の紹介があるが、宝塚市立宝塚自然の家は他市に自慢できる自然環境学習フィールドだと思う。書いてあるだけでアピールになるので、名前を入れてほしいと思う。

#### 【事務局】

小学校の環境学習は、エネルギーや地球温暖化防止のカリキュラムがないため、市民団体が温暖化防止学習の出前講座をする取組が行われているので、市民が実施するという書きぶりになっている。「への」という表現は考えたい。中学校はエネルギー教育があり、市は今後、備品の充実などを行っていく。そこは今後も進めていきたい。この計画を小中学生が理解するには難しいと思う。この計画にはキッズ版もある。この計画を市民や事業者に広めていく際には、子供向けのものも一新していきたい。本編の中でも、図など改善できるものは可能な限り努力していきたい。

ペレットストーブは、確かに県民局にもある。他にもあれば紹介していきたい。

次世代自動車のインフラは模索を続けているが、なかなか作れていない。三田市や丹波市の状況は知っている。今すぐは難しく、実現するためにまずは計画に書いている。

自然の家は確かに大事な施設なので、その言葉が入るように考えたい。

#### 【委員】

2007年から「温暖化防止教育をひろげる会」の活動をやっている。小学校で温暖化問題ができるだけわかりやすく授業している。メンバーは現在10人ほどで、平均年齢は70代後半と高齢化が進んでいる。今まで毎年2~4校で出前事業を行い、全校に広げたいが、人手が足りない。現在は高齢化のため、環境部と学校教育課にお願いして、市のプロジェクトとして全小学校向けに出前授業をしてほしいとお願いしている。我々は夏休みをはさんで、出前授業を行い、夏休みの課題で家族と一緒に温暖化対策に取り組んでもらう。夏休み明けには成果が出ているが、2~3年後は見られない。市の方に引継ぎをよろしくお願ひしたい。

計画で一番大事なのは、PDCA。それをきちっと回すことが市の計画ではできていないと思う。P、Dはできても、結果が上がってこない。CO2の排出量の算出で、国のデータを按分しているが、これでは市の成果がわからない。スマートメーターで電力使用量を見るのはひとつの方法だと思う。進歩がわかる数字を、最低でも1年サイクルくらいで出さないと、次のAにつながらない。計画倒れにならないよう、そこはお願いしたい。

#### 【事務局】

この分野の難しさは、例えば環境イベントでの啓発人数はわかっても、それがどれだけCO2削減につながったのかが見えないことである。市の事業である省エネチャレンジも、参加人数はわかっても削減できたCO2量がわからない。小さなことだが市民のみなさんにも、これをしたら、このくらい削減できたというバロメーターを示したい。自分たちも事業とその結果を数字で示す方法を模索していきたい。温室効果ガス排出量の速報値は1年後に出るが、部門別の確報値は2年遅れで出る。市民向けにも今年度HPで市の温室効果ガス削減量と、部門別の分析を公開している。

#### 【委員】

P58の廃棄物発電の推進で「市の取組」の「廃棄物発電」と「サーマルリサイクル」を行うことが「ごみ減量の推進」とどう関連するのかわからないし、プラスチックを燃やすことを前提としたサーマルリサイクルは賛成できないと意見を述べた。その回答は、プラスチックはエネルギー量が高いために温室効果ガスの抑制につながるとあるが、サーマルリサイクルはプラスチックを燃やすことを前提にしている。それは世界のプラスチックを減らす流れに逆行していると思う。この計画の中でP56~57にごみの減量化の推進についても書かれているが、この中にプラスチックごみの削減が出てこない。これも見直す必要があるのではないか。

#### 【事務局】

回答はクリーンセンターとも相談して書いた。プラスチックの分別は2007年くらいから始めている。プラスチックをリサイクルした分ごみの量が減った。現在分別できないで、やむを得ず一般ごみとして燃やしている部分がある。焼却が避けられない場合には少なくとも

エネルギー回収をすると書いている。プラスチックごみ減量についてはクリーンセンターの考えも聞いて、できれば反映したい。

**【委員】**

プラスチックごみ削減は世界で共有されている前提である。ぜひ、ごみの削減の項目の中に入れてほしい。プラスチックごみが大幅に削減できてもゼロにはできないので、それがサーマルリサイクルされるのが適切なのか埋め立てがいいのか、その時点で検討すべきだと思う。サーマルリサイクルは他の自治体では積極的に進めているのか。

**【委員】**

国は2035年にプラスチックは全部リサイクルするカリユースし、2025年にはリサイクルしやすい物質に変えていく方向に向かっている。少なくとも2030年以降はプラスチックは石油由来のもの以外で作るという動きがあり、メーカーも努力し、消費者にも浸透してきている。現在のプラスチックの問題は海に流れ出ているもの。大気中にも浮遊している。

推進員として校長先生に温暖化について説明をしているが、なかなか小学校での授業の門戸が開けないが、数校では受けてもらった。各地で温暖化について話をして感じているのは、主婦、お母さんの関心が高いこと。大変心強い話である。温暖化のもと人間が化石燃料を燃やすことなので、その生活から脱却していくことを考えていかななくてはいけない。

電気自動車や水素自動車の話があるが、よく考えなくてはいけないと思う。温暖化対策にならない場合がある。電気自動車といっても、燃料の電気がどうやって作られているかを考える必要がある。水素自動車も、水素を作る時に電気をたくさん使う。最終的には石炭石油のエネルギーを使わない生活をするというのが基本だと思う。

**【事務局】**

海洋プラスチックやプラスチックそのものの問題意識は高まっているので、分別やバイオプラスチックへの動きは加速すると思う。プラスチックの分別が進みつつ、ごみとして処分しなくてはいけないのであれば、少なくとも熱は回収したいと思う。

電気自動車は、何の電気で走っているかは大事だと思っている。再生可能エネルギーであればいいが、火力で作った電気で走るのであれば、本当にCO<sub>2</sub>削減になっているのかという疑問もある。エネルギービジョンではそのようなことも意識して書いている。

水と工場から排出されるCO<sub>2</sub>でメタンガスを作って、都市ガスが変わる、という大阪ガスの取組の報道を見た。その考え方はカーボンニュートラルになるので大事だと思っている。このように技術は進歩しており、研究段階の技術は計画に書きにくい、10年の間で世の中の進捗に合わせて見直していきたい。

**【委員】**

電気は再生可能エネルギー起源のものに変えていかななくてはならない。ガソリン、化石燃料は早く私たちの生活からなくさなくてはいけない。電気自動車は生産段階でのCO<sub>2</sub>排出量は多いが、LCAで見ると4万km以上走ると削減になる。

気候変動の危機感を煽ると反動があると書いてあるが、そんなことはないと思う。危機感をどう知らせるかが大事。温暖化はじわじわと進んでいく。今温暖化対策を取ったとしても、

20年後まではその成果が表れない、つまり今よりひどい状態になっていく。このままではいつか臨界点を超える未来が待っている。その危機をどう一般の人に知ってもらうかが大事で、2030年までにどうにかしなくては人間の将来が危ない。2度上昇を超えると人間界、自然界は持続不可能になる。その状態が迫っている。そのためには今頑張らなくてはいけない。その危機感の共有が大事。不安になるのは当たり前で、不安になった後に、どうにかしなくてはいけないと思う人を増やすことが大事。

**【委員】**

プラスチックごみを週1回出している。P16の「分別できない又はされないプラスチック類」が焼却にまわるのだと思うが、クリーンセンターでプラスチックの分別は手作業でしているのか。選別する手間を考えると焼却した方がいいのではないかとも思う。資源化できる量が少ないという話もあったが、分別しても資源化できないのか。

**【事務局】**

分別したプラスチックは全てリサイクルになっているかというところではないと思う。選別は手作業をしていると思われる。

**【事務局】**

手選別している。また、宝塚市のプラスチックごみの回収の特徴は、他市ではプラマークのみを集めるが、宝塚市ではプラスチックは何でも回収して、回収率を高めた上で、その中から資源化できるものをできるだけ資源化するという考え方でやっている。植木ごみなども含めた資源化率になるが、全国平均より10%ほど高い。そもそもということで言うと、出さないことが一番大事だという認識でいる。

**【委員】**

プラスチックの問題は、プラスチックの中に熱、紫外線に強くなる物質がたくさん入っていて、それが医学的にどう人間に影響が出るか、世界中で研究がされている。プラスチックについてはそういうことを考えながら生活しなくてはいけない。

2度気温が上がったら地球がどうなるかわからないから不安を抱えている。その不安は、70万年の間に地球の温度が2度上がったことはこれまでになかったということ、2度上がると気候危機がとめどなく拡大していくということ、2度上がると地球上の生物が生存できなくなるかもしれないということ。2度上昇はこわいという気持ちをみんな持たなくてはいけない。今世界で排出量をゼロにしても30年は上昇が続く。そういう状況にあること知ってほしい。

宝塚市は次年度の予算を作っているが、温暖化の問題、緑化、再生可能エネルギーへの措置がきちんされるようお願いしたい。

**【会長】**

論点整理をする。温暖化対策実行計画案を庁内会議やパブリックコメントに出していくが、その中間答申を今日は議論している。「サーマルリサイクル」という言葉を使うかどうかだが、もし出ているようであれば、注意書きのところに詳しく書いていくなどで対応するのがいいかと思う。危機意識を共有できるような書き方だが、これまでより増えているとは思



うが、事務局としてはこの点はどう考えているか。

【事務局】

これまでの審議でその都度修正して盛り込み、危機感と対策を取ろうという前向きな意識のバランスが取れていると思っている。非常事態宣言などと連携して、市民の皆さんへの危機意識を持ってもらう市の施策の打ち出し方も考えたい。

【会長】

「煽る」というより、正しく事実を認識してもらえるように、具体的に伝えるということだと思う。

【委員】

P61のPDCAだが、報告頻度が書かれていないので追記してほしいと思う。

【会長】

「宝塚の環境」は毎年出している。P62に「毎年度」とは書いてあるが、もう少し伝わるような形を検討したい。

【事務局】

報告は毎年度していくし、報告の手段は、充実させて、わかりやすくできるものを考えたい。危機意識はバランスを取ったつもりだったが、パブリックコメントで市民のみなさんの反応を見て、正確な事実を入れて正しく認識してもらうこともできるのではないかと思う。

【会長】

今日いただいた意見は、自分と事務局で、取り入れるところは取り入れて、皆さんにはメールでお諮りして、手続きを取っていききたいがよろしいか。パブリックコメント後の審議会で、再度、意見をいただければと思っている。

(3) 宝塚市気候非常事態宣言の策定について

気候非常事態宣言は重要なものだと考えており、適切なスピードで進めていかななくてはならないと思っている。この宣言は市民団体から請願があって案を作成した。

最初の段落で世界の異常気象の現状や人間の活動の影響など事実を述べ、次の段落で世界の1.5度に抑える目標、日本の2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロにする目標、そして自治体に取り組んでいく意義について書いた。そして最後にこのまま対策を取らないと未来が過酷な状況になる、ということを書いている。

宝塚市には平成8年に出された「環境都市宣言」という別の都市宣言がある。環境都市宣言は20年以上前のものであること、恵まれた自然環境の継承については書かれているが現在の気候危機には触れられていないこと、環境都市宣言の大きな流れを引き継ぎつつ、気候問題に対応していくために、気候非常事態宣言を発出するという考え方をしている。内容は、市民や事業者への周知啓発、2050年までに温室効果ガス排出ゼロという目標、市民や事業者との協働、他の自治体へ「気候非常事態宣言」の連携を呼びかけ、の4点である。本日で結論を出すことは難しいが、まずは意見をお願いしたい。

質疑応答

**【委員】**

「他の地方公共団体や行政機関等」の「行政機関」は何を指しているのか。

**【事務局】**

地方公共団体以外の国や関連する団体を指している。

**【委員】**

地方公共団体は都道府県、市区町村である。行政機関は市内だと市長、教育委員会といった市の手足となって動く団体を意味する。「地方公共団体や行政機関等」という言葉は誤解を招かないか。

**【委員】**

気候非常宣言はいろいろなところが出しているが、表現が穏やかすぎないか。現役世代の将来への切迫感が感じられない。気候危機を多くの人に知ってもらって、自分事として考えられないと社会を変えていくことができない。50年先の人類社会の存続にかかわる問題である。それをもっとはっきり言うべき。早く広く進めるための宣言をお願いしたい。そして、宣言後の具体的な取り組みのための人と予算も大事である。気候対策は最重要事項である。

**【委員】**

非常事態宣言という言葉に違和感がある。非常事態は何と比較して非常なのか。気候変動は世界的な問題だが「宝塚市」となっている。市民が理解して、取り組むことをしなくては、やっている意味がない。そのために具体的に国の求めている数字、他市と宝塚市の数字を示して、宝塚市が遅れていることを示した方がいい。そうすれば、市民はついてくる。宣言は立派だし、やることに意味はあるが、目標とターゲットがわからない。

**【委員】**

内容に加えて形式も大事だと思う。文章を美文調に格調高くする必要がある。例えば、2020年10月「に」の「に」を取る、「実質的にゼロにする」の「に」を取るなど。あと、対象は市民か、世界かどちらなのか。それを強調してはどうか。

**【事務局】**

文章を整える作業はこれから行う。対象は市民になる。世界の話、パリ協定の話は、市のことだけを述べても、世界の非常事態を書かないと市民の方が捉えにくいので、このような構成にしている。

**【委員】**

「CO<sub>2</sub>排出量」とあるが、元素記号は中2で学び、中3で初めてCO<sub>2</sub>が二酸化炭素だと理解できる。漢字で二酸化炭素としてはどうか。温室効果ガスもかえってわかりにくい。

**【委員】**

宣言が唐突すぎると思う。それよりもいい実行計画ができようとしているので、それを市民のみなさんに伝えて、啓発することが大事ではないか。宣言を出す必要はないと思う。

**【委員】**

宣言は、世界市民として、宝塚市民として、この事態を認識しているという宣言だと思う。世界では進んでいるところも遅れているところもある。世界では、行政だけでなく、企業や

学校、学会も宣言している。意識していることを表明するものなので、宣言を出す必要があると思う。自分は二酸化炭素より温室効果ガスと言うべきだと思う。

**【委員】**

宝塚市は何もしていないから非常事態、と後ろ向きに捉えた。環境先進国は宣言を出しているのか。当たり前のように活動しているから宣言を出していないのではないか。宝塚市は環境都市宣言に向けて頑張っているのだから、それでいいのでは。10年前に先進的に出しているのであれば意味があると思う。今更感がある。

**【事務局】**

非常事態宣言が世界の多くの国、自治体で広がっている状況を確認している。国内でもゼロカーボンシティの表明もある。

**【委員】**

基本的に我々の意識は変化している。宣言を出すことはいいと思う。その際に、2、3がポイントなのでもっと特筆し、1、4は本文の中に書かれてあればいい内容だと思う。

**【委員】**

環境都市宣言との比較で気になったが、気候非常事態宣言の1-4の主語が「市」で、環境都市宣言は「私達」となっている。危機意識を共有するのが一番の目的で、市が市民に対して啓発するのが実情かもしれないが、「私達」を主語にした方が宣言の意味が出ると思う。市民が文章を作ればいいが、どうやって市民レベルでの宣言できるかが考えどころだと思う。

**【事務局】**

他市の宣言も見ると、宣言日、市長名、という形が一般的。その中で、市だけが宣言するというイメージにならないように、少し研究したい。

**【委員】**

市民が主体になる宣言をするのは大事だと思う。宣言は、ある課題に対して、ここで市民が一体となって脱皮しなくてはいけない時期に出されるものだと思う。そういう意味で、市民が地球温暖化問題についてどの程度危機意識を持っているのか把握しておかなくてはならない。その上で宣言を発し、一体になって、何ができるか。そこにかかっていると思う。

**【委員】**

環境都市宣言と気候非常事態宣言の関係をもう一度説明してほしい。市民の捉え方が気になる。

**【事務局】**

環境都市宣言は環境全般、包括的な内容で、その中に地球温暖化問題も含まれる。環境全般を大きく捉えるのもいいが、時間も経過しており、時代に合わせた気候の宣言があってもいいと思っている。気候非常事態宣言を出すことで、環境都市宣言がなくなるわけではない。

**【会長】**

本件は次の審議会でも継続して議論したい。宣言事態宣言を出すこと自体に違和感がある、という意見があったが、宣言を出そうという動きになった経緯を今一度説明してほしい。

**【事務局】**

市民団体から市議会に策定を働きかけるようにという請願があり、それが採択されたので、現在、策定することを検討する段階に入っている状態である。

**【会長】**

宣言を出すにあたっての審議会の位置づけも説明いただきたい。

**【事務局】**

環境審議会は、環境に関する重要な議題を審議する場なので、気候非常事態宣言の案も審議会にかけていく。市は「答申」をお願いしている。審議会で宣言案を出していただいたら、それは市として重く受け止めるが、答申後は市も関与し、市としての判断も行う。

**【会長】**

答申、ということであれば、諮問が出ているという理解でいいか

**【事務局】**

その通りである。答申をいただいた内容については、市も検証し、パブリックコメントも行う。また、宝塚市の特徴として、都市宣言については議会の議決によると条例にある。気候非常事態宣言を都市宣言だと議会が捉えた場合には議決案件になるので、議会でも審査の可能性がある。かかるかかからないかは、議会で個別に精査していただくこととなる。

**【会長】**

気候非常事態宣言の位置づけを共有できたかと思う。今日の意見の中では、宣言を出す前提になるが、危機意識を共有できるような書き方、主語を「私達」にするなど、市民に伝わるような、文章自体も心に響く格調高い文章に、といったものがあつた。宣言を出した後に何につなげていくのか、そのあたりも審議会で議論する。そのあたりを勘案しながら案を練って、次回意見交換していく。

**【事務局】**

多くの意見をありがとうございます。意見を整理して、次回また提案させていただきたい。

**【会長】**

個人的な意見になるが、環境都市宣言は包括的で、その一部が気候非常事態宣言という説明があつたが、その整理をお願いしたい。環境都市宣言を、取り組んではいるが、そのベースが大きく揺らいでいるので、気候問題とセットで取り組んでいかないと環境都市宣言も実現できない、という印象を自分は持っている。両宣言の位置づけを整理してほしい。場合によっては複数案出していただいた方が議論しやすい場合もある。

以上で議題③の審議を終了する。

閉会

**【事務局】**

長時間ありがとうございました。計画については、事務局と会長とで修正事項を調整し、皆様にはメールで報告させていただく。